

第1回羽幌町環境基本計画町民検討会議（市街地区） 会議録

- 1 開催日時
平成28年8月26日（金） 午後6時30分～午後8時40分
- 2 開催場所
羽幌町役場4階 大会議室
- 3 出席委員及び欠席委員の氏名
 - (1) 出席委員 北條 由紀子、米山 しげみ、菅原 新一、五十嵐 芳信、
岩澤 光子、竹谷 るみ子、高山 ミイ、濱野 孝、工藤 匡、
篠原 隆宏、岡部 克寛、川端 博明、木本 志津子、上田 稔、
竹中 康進
 - (2) 欠席委員 米山 一夫、竹谷 美幸、渡辺 奈智、和泉 幸生、藤田 隆二
- 4 説明のため出席した事務局職員の氏名
町民課 課長 室谷 眞二
町民課環境衛生係 係長 山田 太志
町民課環境衛生係 主査 石郷岡 卓哉
- 5 会議の公開、非公開又は一部公開の別
公開
- 6 会議を非公開又は一部公開とした場合は、その理由
- 7 議題及び議事の要旨
 - (1) 羽幌町環境基本計画見直しについて（資料1）、見直しスケジュールについて（資料2）
 - ・計画見直しの概要、策定に向けた進め方について事務局より説明。
 - (2) 取組の実施状況の点検・評価について（資料3）、住民の取組の実施状況について（資料4）
 - ・3グループに分かれグループ討議を行った。各グループで出された意見等は別添のとおり。

平成28年8月26日(金)

メンバー 菅原、川端、米山、高山、上田

【ごみ】

- ・ ゴミ出し・分別に対するマナー・意識の低さが課題である
- ・ ゴミの海への流出の対策を講じる必要がある
- ・ 流木をどのように活用するかが課題である
- ・ 田畑やあぜ道にごみを捨てられると、草刈り時にごみが飛散し怪我をする上、作業機械が破損する

【会議について】

- ・ 行政が住民の話を聞くという意味で、町民検討会議に各課の担当者が居ても良いのでは

【情報提供】

- ・ 行政の横の繋がりが見える化をする
- ・ 広報誌などで実際の事例を上げるなど、自然に関わる情報提供を積極的に行う

【環境教育】

- ・ 小さいまちだからこそ町民一人ひとりの意識付けがしやすい
- ・ プリン石けんの作り方等を伝える場があればよい
- ・ 市街地と農村部では生活環境が違うため、環境への意識や考え方に差がある
- ・ 戦う環境、守る環境として環境活動に取り組む必要がある
- ・ 子どもに対しゴミに関する教育を行う必要がある

【生き物との係わり】

- ・ 野良ネコの餌付けをするのであれば、責任を持って飼うつもりでいて欲しい
- ・ 犬の放し飼いなど、ペットの飼育マナー低下が見られる

【住民による取組み】

- ・ 節電に積極的に取り組んでいる
- ・ サンセットビーチで住民によるごみ拾いが行われている

平成28年8月26日(金)

メンバー 濱野、竹谷、木本、岡部、篠原

【環境への意識】

- ・住民が環境への関心がなく、危機感を持っていない
- ・住民の環境意識向上を図るための活動を町内会なども交えて行う必要がある
- ・羽幌町の住民は物事に対し熱しやすく、冷めやすい傾向がある
- ・町内は一見きれいそうに見えるが、実際はそうでないことを伝えるのは難しい
- ・ペット飼育マナーが悪く感じる
- ・環境活動を行っている人が高齢者になり、後継者不足になりつつある
- ・老朽化、破損している歩道の改修をはじめとして、まちの美化意識を持つ必要がある
- ・油、汚水等を排水する人がおり、川の汚染に繋がる
- ・マナーが悪い人に対してなかなか注意できないのが現状である

【情報提供】

- ・廃油は燃料になるため再利用しているが、そのことを町民へ周知すべき
- ・プラスチックごみはきれいに洗うことで、高価で回収してもらえることを周知すべき

【まちなか整備】

- ・旧フェリーターミナルの整備・美化を行う必要がある
- ・レストパークの遊具は近い将来に設置される予定である

【ごみ】

- ・ごみに係る冊子を新しく作りなおしてはどうか
- ・空き地や街灯の整備、監視カメラ設置など、町の治安を良くする事で不法投棄がなくなるのでは
- ・ごみに対する住民意識は高いと感じる

【住民による取組み】

- ・まちなかに花を植えている
- ・下水道の水洗化を行っている
- ・待機電力削減のためコンセントを抜くなど、節電を積極的にしている
- ・工事で汚水を出さないように工夫している
- ・プリン石鹼を使用し、合成洗剤をあまり使用しないようにしている
- ・薪ストーブを使用し、灯油をあまり使用しないようにしている
- ・買い物をするときはエコバッグを活用している
- ・資源ごみ(布・綿等)の回収を消費者協会や生協で年2回(春・秋)行っており、カンボジア等に送っている

平成28年8月26日(金)

メンバー 竹中、五十嵐、工藤、岩澤

【情報提供】

- ・海鳥センターはもとより、農協、漁協、商工会でも情報提供を
- ・羽幌ボランティア連絡協議会を通してPR

【環境教育～自然の仕組みを再認識～】

- ・段階に応じた教育カリキュラムが必要
- ・子どもたちに地元の自然を知る機会、大人にも地元の自然環境を学ぶ講座で現状を知らせる
- ・ビオトープ、知られていない?
 - ・元々、ビオトープをつくること+α(俳句づくりなど)の予定だった
 - ・案内をしてくれる人がいれば使いやすい
 - ・内輪の人以外使いにくい
 - ・良い取組みなので活用すべき
- ・中高を対象にしたプリン石けんづくり講習

【ごみ】

- ・一般紙のリサイクルもしてほしい
- ・不法投棄パトロールは最近行っていない
- ・手間がかかるからリサイクルが進まない面がある

【まちなかの緑】

- ・まちなかの屋敷林などの木々を伐採しないで欲しい
- ・公園に日影ができるような木がない

【連携】

- ・ママナビサークルのような取組みは良い
- ・町民検討会議に森林関係者を入れて欲しい
- ・本土の町民が天売・焼尻に行く機会を

【住民による取組み】

- ・花いっぱい運動がきっかけで継続的に花作りに取組まれている
- ・野良猫には、かわいそうだがエサをやらないようにしている
- ・町内に数名清掃活動している方がいる
- ・レジ袋はもらわず、必要な場合段ボール箱を使い、資源ごみに出すようになった
- ・洗剤はプリン石けん、洗濯は粉石けんを使用
- ・環境配慮されている商品を使用
- ・天売ネコのボランティアに参加し、周りに広めている
- ・「特別栽培米おろろん」を食べている
- ・口にする農作物の優先順位づけ①自分の畑、②羽幌産、③北海道産、④国産
- ・野菜・果物は露地物が出るまで我慢し、温室ものは出来るだけ食べないようにしている
- ・不要なものは購入しない
- ・衣類は生協を通じて開発途上国へ寄付
- ・ふれあい広場でのリサイクルに出品